



発行：“人間と性”教育研究協議会/発行責任者：北山ひと美
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-7-16 初台/ハイツ1006号
https://www.seikyokyo.org Tel 03 (3379) 7556

視 点

性教協とのこれまでと、これから

性教協と出会って30余年。夏期セミナーへの参加は、1991年に東京で開かれた第10回大会からである。当時は学習指導要領の改訂で小学校での「保健」の学習が始まり、私が当時勤務していた小学校でも校内研究で性教育を取り上げていた。「性教育元年」といわれていた時代である。

それから33年後の今年の夏、静岡で開かれた第43回大会にも現地参加した。この間、セミナーの模擬授業・分科会にはレポーターとして、またコーディネーターとして幾度となく関わってきた。なかでも印象に残っているのは、2003年の静岡大会で出した分科会レポート「今、性教育が危ない」である。この分科会の参加者数は200名を超えていた。会場からは、鬼気迫る熱気を感じたことを昨日のこのように覚えている。性教育バッシング真っ只中のレポートであった。

そしてここから幹事に加わらせていただいた。幹事就任の挨拶で「火中の栗を拾いに行くようなものかも知れません」と話したら、先輩幹事のある方から「塩塚さん、火中に栗があるといいわね」とニコニコしながら言われた（励まされた）ことも忘れられない。幹事になってから第24回の徳島大会、第27回の愛知・岐阜大会、第34回四国（愛媛）大会の3つの大会でセミナー副実行委員長を務めた。徳島大会では基調報告をさせていただいた。あとの2大会では、模擬授業・分科会の窓口としてセミナーの運営に携わった。第31回山口大会、第41回中国（広島）大会では実行委員長を務めてきた。実行委員長としては、セミナーに参加してくれる人が一人でも多くなるように、また参加された方が参加して良かったと思ってもらえるように、現地の実行委員の方々と協力して微に入り細に渡り大会運営に努めてきた。実は記録には残っていないが、コロナ禍で中止となった2020年の鹿児島大会でも実行委員長を務めるはずであった。そして、中国（広島）大会の実行委員長の仕事を最後に、昨年鹿児島大会後に幹事を退任

した。

私が現在代表を務めさせていただいている東京サークルは、2012年の山口大会後に立ち上げた。1990年代には東京にも複数のサークルがあったが、少しずつ減りいつしか一つも無くなっていた。長年東京の学校現場で性教育を実践し、組合でも性教育の分科会の世話人を務め、性教協幹事としても仕事をしてきた。そうした中で性教協の本部でもある東京にサークルがないことに自分自身納得がいかず、多くの方々の理解と協力をいただき東京サークルの立ち上げに至ったのである。立ち上げ当時は表だった性教育バッシングは影を潜めていたものの、バッシングの影響で東京では性教育を積極的に学んでいこう、実践していこうという機運はあまり無く、この10年間サークルの会員数もなかなか増えずにいた。このままでは以前と同じようにまた東京からサークルが無くなってしまいかねないとの思いから、幹事を辞めて東京サークルの充実と拡大に取り組んでいこうと考えた。そして設立から10年を機に、2023年から総会だけでなく東京セミナーをセットにして開催することにした。今年の第2回東京セミナーの参加者はオンライン参加24名、会場参加19名だった。オンライン参加の中には地方サークルの方の参加もあった。東京セミナー開催を機に、サークルに入会して下さる方も少しずつ増え、現在の会員数は31名である。サークルの運営にあたるスタッフにも、今回2名加わっていただいた。7年後に開催予定の第50回夏期セミナーの現地サークルとして、何とか皆様に認めてもらえるように努力していきたいと考えている。



塩塚 秀美
（東京サークル代表）